令和６年度　第３回九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会　【議事概要】

１　日時及び場所

令和６年 12 月 18 日（水）14 時 30 分～16 時 25 分

九州森林管理局　２階　大会議室

２　議題

（１）木材の需給動向等について

（２）木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について

（３）その他

３　議事概要

【委員会の検討結果】

現時点で追加の供給調整は必要なく、引き続き民有林材の出材状況、原木価格の動向、工場等の原木仕入れ状況などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである。

【主な意見】

○　合板業界の状況は、1 月から 10 月までの生産量・出荷量は昨年同期と比較してほぼ同じである。在庫量は昨年の 20%増しで若干在庫が増えている。

全国的に住宅着工戸数が減少しているので、合板の需要も減少しており、これに併せて各メーカーも需給バランスがとれるように生産調整を行っている。

市場では入荷量が少ないようである。当社は生産調整しているので丸太が不足している状況にはないが、これ以上の出材量の減少は困るので、国有林材の供給はこれまでどおりの供給量でお願いしたい。

○　紙の出荷量は、合計で輸出も含めると１月から 10 月の累計の前年比で-1.8%である。輸出は出荷量全体で８%と少ないが、円安が追い風ということで非常に好調であり前年比で 16%増となっている。

製紙原料用として一般材の入荷も大きく落ち込んでいて、国有林材のシステム販売に頼るところが大きくなっている。

原木輸出について、中国の木材市況は大きな価格変動がないということで、日本からのスギ・ヒノキの原木の引き合いは、現在も相変わらず強い状態が続いており、今後も引き合いは続いていくという見方が大勢である。

Ｃ・Ｄ材の取り巻く環境は逼迫状況が続いている中で、出材量が少ないということと、新たな発電所の稼働が出てきていることで、需給バランスはどんどん悪化している状況にある。

国有林材の供給調整の必要性については、Ｃ・Ｄ材は完全に足りていない状況であるので、増やしていただきたい。

○　今年は住宅着工戸数の減少以上に製材工場にとっても厳しい１年であった。
　国産材の製材品は価格が安くて非常に厳しい状態にあるが、これは輸入材との比較になるが、シェアを増やす非常にチャンスであると前向きに捉えることはできないかと思っている。
　伸びる可能性がある非住宅とか輸出で住宅着工の減少を補うだけの量を賄うことはできない。各メーカーがそこに向かうと競争が激しくなるということと、輸出の方も波があり安定しないというのは感じている。
　いずれにしても製材業者として原木は少し足りていないと感じているので、国有林材の供給はこれまでどおり順調に供給を続けていただきたい。

○　原木は、伐採現場が奥地化し搬出コストが高くなっていること、10 月の長雨の影響で出材が減ったことによって価格が少し上昇している。11 月になって少し出材が増えてきたものの原木は不足している状況である。
　製材品は、９月まで極端に売れ行きが悪く価格の値下げ圧力が強かったが、10 月から徐々に売れ出してきた。製材工場の在庫も 10～11 月ぐらいである程度売り切れて、品物によっては完全に不足状態にある。どこの製材工場もあまり在庫を持っている様子ではないと思う。
　当社は、1 月末まで注文が入っている状況であり大変忙しくなっている。
　原木は、まだまだ不足しているので国有林材はできるだけ多く供給していただきたい。

○　弊社の今年の１月から 11 月までの原木の取扱量は前年同期比で 92.2%となっている。丸太平均単価は、300 円ぐらい今年が高いということで、ヒノキの価格が好調であることが影響していると思う。
　弊社において、7 月中旬から 10 月ぐらいまで市場の入荷量が減少してきたため、その要因を調べたところ、素材生産箇所の山元土場に大量の丸太が溜まっているものの 2024 年のトラック問題でトラックの運転手の不足により配送に影響が出ていたことがわかった。また、離島から内航船での丸太搬入も、今年の８月ぐらいから一気に止まった。内航船の過酷な環境化のため船員が辞められて船が動かないことが原因であった。これは、全国的にトラック問題で内航船に仕事が集中し船員が不足しているため、うまく機能していないとも聞いている。
　九州は特に他のエリアと違い丸太不足感が強い状況が続いており、今後も国有林材の供給は現状を維持していただい。

○　特にＣ材・Ｄ材の引き合いは強い。
　川上側の世代も代わっており集約化の問題や伐採地の奥地化の問題なども影響して素材生産の生産性の足かせとなっており、このほか今後は境界の問題などを含め出材が増えてくる状況ではないと考える。
　当方としては、宮崎県内では丸太価格や出材量的な部分は、感覚的ではあるが特に

変化したようには感じない。
　国有林材はこれまでどおりの供給をお願いしたい。

○　市場の７月～11 月の状況は、丸太取扱量は前年比４％ほど減少している。しかし単価は逆に 1,300 円の 12%ほど上がり、これに連動して取扱高も７％程度上がっている。
　主伐再造林は増加傾向にあるが、山から工場等へ直送等の影響で市場への出材量は減少傾向であることから厳しい状況におかれていると思っている。
　輸出関係について、鹿児島県は志布志港・川内港から丸太を出荷しているが、輸出先は９割以上が中国向けとなっている。船賃は上昇傾向にあり輸送船の確保が難しい状況である。
　今後は、金利は上昇傾向、住宅需要も減少傾向であり、それに代わる非住宅が増えているものの現時点ではカバーするほど見込めないことを含めると、しばらくは前年対比で丸太入荷量は少ない傾向で推移すると思う。
　国有林材の供給は、現況の相場需給動向を踏まえ、市況安定化のために計画的に安定供給をお願いしたい。

○　戸建ては大変苦戦を続けているような状況である。
　今、忙しいプレカット会社は、非住宅を受注している会社。当社の非住宅部門に関しては、これまでは老健施設等が多かったが、徐々に減ってきてアパート関係が好調のような感じがする。非住宅の受注を取り込んでいないプレカット工場の大半は前年を割っており稼働に差が出てきている。
　各社の受注状況の現状は、12 月 20 日以降は受注が少なく来年 1 月も全然受注がないという会社がある。一方で４号特例の見直しで３月までは駆け込みで非常に忙しくなると予想している会社もある。
　当社の受注状況は、対前年比で 10 月は 101% 、11 月は 108%の実績で 12 月は 112%の見込みである。１月は 110%の受注をいただいているものの来年の 2 月・3 月の受注は非常に心配しており、法改正の影響で駆け込みがあることを期待している。
　このようなことから国有林材はこれまでどおり安定供給をお願いしたい。